

関係者各位

2017年3月

日本学生トライアスロン連合 向田真

# 日本学生トライアスロン選手権 出場権利について

最終項のアンケート結果を踏まえ、日本学生トライアスロン選手権（以下インカレ）の出場権利について変更を行います。今回はシード権に関する項目を変更することにしました。なお、2017年3月に開催された学生総会で、2017年のインカレから適用されることが決定しました。変更後、甚大な問題がない限りは、2018年以降も継続されます。

① シード権を A シード、B シードの 2 種類に分類する

- ・ A シード 前年度入賞選手（6位まで）、JTU 強化指定選手
- ・ B シード 認定記録会 7 級、JTU ジュニア強化指定選手 S・A・B・C

② B シードは地域予選通過枠を含む

- ・ B シード利用者の所属地域から、地域予選通過枠を削減する。

例) 関東ブロック地域予選枠 80、関東所属の B シード利用者 10 の場合、関東学生トライアスロン選手権で 70 位（シード権獲得者除く）までの選手がインカレ出場権を獲得する。

③ B シードでインカレに出場する場合は 4 月 30 日までに申請を行う

- ・ 申請をしなかった場合はインカレに出場することはできない。
- ・ 申請をせずに地域予選に出場し通過した場合、インカレに出場することができる。
- ・ 申請をして、地域予選に出場した場合、予選通過ラインを越えていなくても、インカレに出場できる。
- ・ 申請締切後に B シード利用者のリストを公開する。

④ 地域予選通過枠以上の B シード申請者数であった場合、地域予選通過枠は 1 となる。

## B シード申請フォーマット

宛先 [jutu08\\_info@yahoo.co.jp](mailto:jutu08_info@yahoo.co.jp)

件名 インカレ B シード申請／名前

記載事項 名前、所属大学、学年、性別、獲得級、認定記録会会場

以上全てを記載し、4月30日までにメールをしてください。

※B シード申請者のインカレ出場辞退する場合のロールダウンは認めません。

## 変更理由

アンケートの結果、インカレの出場人数は減らすべきでないという回答が目立った。インカレならではの雰囲気や特性を残したいという意見も挙げられた。しかし、現状の出場選手数に問題意識があることも伺える。特に現行のシード権がそのままの場合、さらにインカレ出場選手数が増え続けることが考えられるため、ルールの整備を行うべきである。

一方で、シード権が必要な選手も少なくない。各地域予選は6～7月にかけて開催される。そのため、国体予選やアジアカップ、日本選手権地域ブロック予選などと日程が重複することもある。しかし、それらに出場希望する選手すべてに代替予選出場を許可してしまえば、インカレ出場選手数を意図的に増やすことも可能となる。そうした事態を避けるためにも、シード権自体は残す必要がある。

そこで、各地域に振り分けられた本来の枠を守る意味でも、シード権を地域予選通過枠に含むこととする。

### ① ②について

前年度入賞選手は、各地域の代表でもあるが全地域を代表するレベルの選手であることは明白である。また、強化指定選手も同等の実力があると判断した。また、前年度入賞選手には上限があること、強化指定制度も認定記録会7級に比べて獲得者が増えすぎないことなどから、出場選手数を固定することができる。

### ③ について

認定記録会の結果などから、学連登録選手のシード権獲得状況は把握できるが、出場意志は把握できない。インカレに出場意志のない選手を、地域予選通過枠に含むことはできないため、シード権を行使する場合は必ず申請を行うこと。また、地域予選が開催される前には最終的な通過枠を確定させるために、認定記録会が一通り開催された4月30日を期限とする。

## アンケート集計結果（賛成率）

アンケート回答数 706（うち12名回答なし）

### インカレシード権

- 1.1 認定記録会7級 87.3%
- 1.2 前年度入賞者 90.3%
- 1.3 JTU強化指定選手 91.7%
- 1.4 ジュニア強化指定選手 78.3%
- 1.5 シード権獲得者を地域予選通過枠に含む 45.8%

### インカレ出場選手数

- 2.1 ドラフティングレースであるために減らすべき 38.1%
- 2.2 JTU公認レースとして認められるため減らすべき 28.3%
- 2.3 現状の出場選手数に問題はない 62.6%

### 変更にあたって

- 3.1 漸進的に進めるべき 71.0%
- 3.2 二部制を採用 30.1%

### 代替予選

- 4.1 代替予選通過枠の上限を定める 62.5%
- 4.2 最終学年の就職試験について代替予選の利用を認める 82.4%